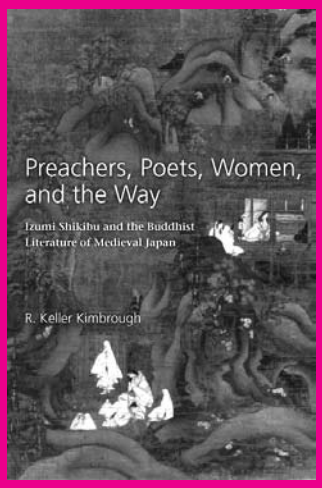
学

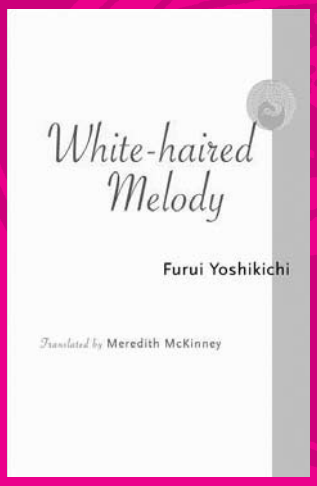
ミシガン大学
日本研究センター

2008年秋

日本研究センター出版会新刊書



『*Preachers, Poets, Women, and the Way: Izumi Shikibu and the Buddhist Literature of Medieval Japan* (僧侶、歌人、女性、そのあり方：和泉式部と中世日本仏教文学)』
R・ケラー・キンブロー (R. Keller Kimbrough) 著



『白髪の唄』
古井由吉著
メレディス・マッキニー (Meredith McKinney) 訳

DENSHO
伝書

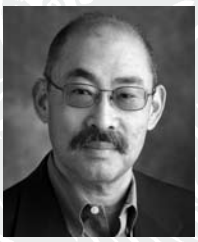
ミシガン大学日本研究センター
Center for Japanese Studies
University of Michigan
1080 S. University, Suite 4640
Ann Arbor, MI 48109-1106

DENSHO
伝書

ミシガン大学
日本研究センター

2008年秋

所長ご挨拶



ミシガン大学日本研究センター（以下「CJS」または「当センター」）の所長として初めての文章の執筆です。私は、過去においては日本研究に多大な貢献を示し、現在においては多数の優秀な教員、将来性ある学生、傑出した卒業生を擁する当センターを率いるというたいへんな栄誉を授かりました。

当職に就任するにあたり、私は、当センターは自らが所属するコミュニティがあって初めて存在できる、ということを念頭においています。私たちの使命は、ミシガン大学での日本研究を可能な限り強力なものにすること、長く存続する新しい学問を生み出すこと、教授に勝る学生を養成することにあります。これを本人のみの力で成し遂げられる人は誰一人としていません。私たちは学者として成長し、また私たちの研究は規模を、深みを、そして表現力を得ます。これは、私たちが他の人々の心、同僚や学生の心に触れるからなのです。学生は逆に、知識のネットワークおよび教師やクラスメートとの関係を築くことを通じて成長します。学問とは書架やコンピュータを前にした孤独な時間を要するものですが、それと同じくらい、つながりを持つことの喜びから支えを受けるものでもあります。そこで当センターは、協働を奨励し、コミュニケーションを育成し、対象コミュニティの健全性を請け負うことにより、当センターの使命を確約していきます。私の任期が満了した時点に、私たちが皆、お互いをほんの少しより良く知り合えた、良い仕事を分かち合えた、と言えることを私は願っています。

日本を専門とする知的コミュニティのニーズは、かつてなく増大しています。CJSが1947年に創立された当時には、「日本研究」と称されるものを米国内に設立することがそもそものプロジェクトでした。そして今、学術分野の需要が著しく高まり、国境を越えた考察が要求されるようになり、理論と方法が主題と思想の伝達の一致を強く求めるようになった現在では、日本研究を再定義することが課題となっています。私たちが今必要とするのは、真にグローバルな思考、真に理論的な思考は文化および言語の特徴への注意を要するものであると主張すること、それと同時に、「日本」を研究するとは何を意味するかについての吟味を反映させた日本研究を行うことです。これこそ、コミュニティによって最も追求され支持される類の日本研究です。

これはさらに、将来の世代の学者によって完成に導かれる類の日本研究でもあります。ミシガン大学の日本研究の教員は、移行期にあります。今期は日本政治学の教員としてケネス・マッケルウェインを新しく迎え入れました。同氏は、ここ2、3年にミシガン大学に降り立った一連の印象深い助教授たち、すなわちマイカ・アワーバック（歴史学・仏教研究）、ケビン・カー（美術史学）、福岡真紀（ヴィジュアル・カルチャー）、筒井清輝（社会学）、ジョナサン・ズウィッカー（文学）に加わることになります。彼らがCJSでの共同研究の一端を担うようになることを見守ることは、私の任務の一環です。

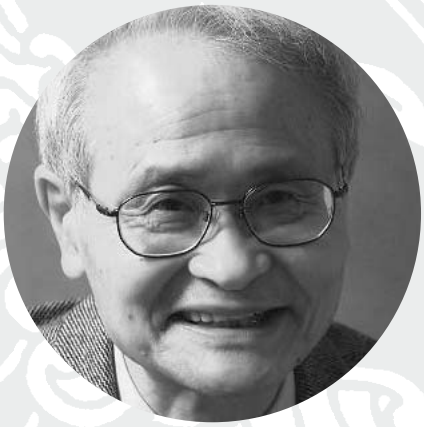
CJSのコミュニティは、当地のみならず、ミシガン大学卒業生が居ついたすべての場所にも存在します。CJSおよびミシガン大学の様々な博士号課程の同窓生

第3ページに続く

総編集長より

1997年、当センターはダナ・ジョージ・ストーリー（Donna George Storey）の批評・序文付き訳で古井由吉著の『*Child of Darkness: Yôko and Other Stories*（暗い子：「杳子」他）』（Michigan Monograph Series in Japanese Studies, No. 18, ISBN 0-939512-78-5、紙装、16.95ドル）を出版しました。この訳書を、エリック・R・ロフグレンは『*World Literature Today*』誌の中で「心を揺さぶるほど内省的で、脳裏にこびりつくように荒涼とし、不穏にも説得力ある読みやすさ」と呼んでいます。小説『杳子』は、1970年に芥川賞を受賞し、古井を日本の文壇の中心人物として確立しました。

そして今、「現代日本文学の翻訳・普及事業（JLPP）」との協働により当センターから古井の小説『白髪の唄』を出版したことを喜んで報告します。この小説は発表と同時に好評を博し、1997年度毎日芸術賞を受賞しました。笠原伸夫は、産経新聞でこの小説を「50歳代の難関に直面した人々の日常の不安を描く長らく待たれた秀逸の作である。古井の静穏な作風の水面下には、毎日の生活の苦悩と危険がさざ波を立て波紋を広げている」と評しました。



古井由吉 – ©新潮社

第2ページに続く

目次

図書館司書より 2

トヨタ招聘客員教授より 4
2008 ~2009年教員研究補助金発表 5

これまでの催し物 6

センター催し物 7
学生・卒業生短信 8

教員・アソシエート短信 10
お知らせ 12
カレンダー 14

図書館司書より

アジア図書館の館長に楊繼東博士が就任します。歴史学で博士号を取得した楊博士は、このたびペンシルベニア大学からミシガン大学に赴任します。アジア図書館一同、同氏の幸運をお祈りすると共に、同氏の存在が図書館を将来の成功に導いてくれることを望んでいます。

前回までのニュースレターで言及しましたとおり、グーグル・プロジェクトは引き続きミシガン大学の重要課題です。現時点で、ハッチャー大学院図書館の3・4階の南側書庫の資料分をすべて完了しました。現在は5階の書庫について進行中で、その後、歯科図書館とタウブマン医科図書館へと続けていきます。これらがすべて完了すれば、またハッチャー大学院図書館に戻り、アジア図書館の作業が開始されます。この過程の最中は、利用者には多少の不便が生じるかもしれません。図書館員がお手伝いしますので、お申し付けください。

2〜3年前、当図書館が購入した貴重な資料、『東亜同文書院大旅行誌』（マイクロフィルム版）に触れました。東亜同文書院は、荒尾精により上海に1890年に設立された日清貿易研究所から発展して1901年に設立されました。書院の第一代院長の根津一は、1945年に閉鎖されるまでの半世紀のうちに約5,000名の卒業生を輩出した日清貿易研究所の出身でした。学生は、中国語とビジネスの徹底的な基礎知識を教え込まれ、中国と東南アジアの研究遠征旅行の一角を担いました（http://www.aichi-u.ac.jp/institution/05.html)。ミシガン大学アジア図書館は、中国と日本の近代史の分野においてとりわけ重要なこのマイクロフィルム版を有する北米唯一の図書館です。詳細については、ウェブサイトMirlynで題名『*Toa Dobun Shoin*』から検索してください。

最後に、アジア図書館では、当図書館の新購入文献を定期的にメールでお知らせしています。しかし、そのメールが記載できるのは当図書館が購入する資料のほんのわずかな一部分にすぎません。当図書館の資料および新購入文献のさらなる詳細情報につきましては、当図書館のOPACシステムならびにホームページ（http://www.lib.umich.edu/asia/）をご覧ください。

アジア図書館
日本部部長
仁木賢司

総編集長より

第1ページより続く

古井由吉の作品は長らく、成長する人間、老いる人間のドラマを取り扱ってきていますが、彼はさらに精神と記憶の奥底まで探りを入れることにより、人間の存在の最も深遠な謎にも触れています。そして、狂気と死という深刻なテーマとの均衡をとるかのごとく、日常生活に本来から備わっているブラックユーモアに並々ならぬ感受性を示しています。『白髪の唄』もその例外ではありません。これは老年に差しかかる一人の男性の毎日の経験の記録であり、彼の日常生活の基本的ながら隠れた性質を徹底的に掘り下げ、詳細を再現する容赦のない散文スタイルを用いています。日本最高峰の現代小説家が彼の最盛期に執筆した作品、『白髪の唄』は、見逃されてはなりません。（Michigan Monograph Series in Japanese Studies, No. 61, 2008, ISBN 978-1929280-46-9、クロス装のみ、29.95ドル)。

また、『白髪の唄』の訳者、メレディス・マッキニー（Meredith McKinney）も当センター出版会が初めての人物ではありません。我々は1998年に彼女が翻訳した『*The Tale of Saigyô* (西行物語)』(ISBN 0-939512-83-1、紙装、11.95ドル）を出版しました。オーストラリアはブレイドウッドに在住の彼女は、オーストラリア国立大学で日本語の教鞭をとっています。

この秋の二番目の出版物は、R・ケラー・キンブロー（R. Keller Kimbrough）著の『*Preachers, Poets, Women, and the Way: Izumi Shikibu and the Buddhist Literature of Medieval Japan* (僧侶、歌人、女性、そのあり方：和泉式部と中世日本仏教文学)』(Michigan Monograph Series in Japanese Studies, No. 62, 2008, ISBN 978-1-929280-47-6、クロス装、75.00ドル、ISBN 978-1929280-48-3、紙装、29.00ドル［仮］）です。同著は、ブリティッシュ・コロンビア大学のジョシュア・モストウにより以下のとおり推薦されています。「ケラー・キンブローは、『*Preachers, Poets, Women, and the Way*』により、研究と推論の傑作を生み出した。平安時代の有名な女流歌人、特に和泉式部に関する日本の中世の様々な物語を検討するにあたり、彼は、誰がどのような前後関係において誰に向かってどういう目的でその物語を語ったのかを、考慮している。キンブローは、仏教の救済論における倫理観、性、女性の地位に関して自分自身の罪の自覚を正当化するために詩歌を詠い平安貴族の女性の生活の粉飾した叙述を語った布教者、娼婦、寺院建立の資金調達者の複雑な込み入った関係を解き明かしている。［この本を読んだ者は］紫式部、和泉式部、清少納言などの古典的な作家の不朽の名声をこれまでと同じ見方で見ることは二度とないだろう。」

民俗学者、柳田國男の1930年代前半の画期的な仕事に鼓舞された『*Preachers, Poets, Women, and the Way*』は、平安時代の女流作家である和泉式部、小野小町、紫式部、清少納言の虚構のスキャンダラスな話が平安後期および中世日本の競争の激しい説教や資金調達に利用された様子を探索しています。この著作は広範囲にわたる中世の文

や絵を出典として用い、これまでほとんど研究されていなかった多様な遊歴布教者や寺に住み込みの布教者兼芸人の中世文学文化の形成と普及における役割を説明しています。

『*Preachers, Poets, Women, and the Way*』は、平安女流歌人の現代における名声の中世における根源を綿密に調べることにより、教義上および制度上の対立関係、宗派間の争い、熱心に表現された信念などの忘れ去られた世界を照らし出し、和泉式部およびその他が国家の文化的シンボルとして今日賞賛されるに至ったその過程を暴露しています。

R・ケラー・キンブローは、10月9日のヌーン・レクチャーの講師でした。同氏は、コロラド大学ボルダー校のアジア言語・文化学科の助教授です。1999年12月にイェール大学で博士課程を修了し、ミシガン大学、バージニア大学、コルビー・カレッジ、コロラド大学の各学府で教鞭を執ってきました。

次に、今冬に出版予定の書籍は、ウィリアム・ウェイン・ファリス (William Wayne Farris) 著の『*Daily Life and Demographics in Ancient Japan* (古代日本の日常生活および人口統計実態)』(Michigan Monograph Series in Japanese Studies, No. 63, 2009, ISBN 978-1-929280-49-0、クロス装、70.00ドル[仮]、ISBN 978-1-929280-50-6、紙装、26.00ドル［仮］) です。学者たちは何世紀もの間、日本の、とりわけ遠く過ぎ去った時代の日本 (700～1150年) の一般庶民の日常生活はどんなものであったろうと思いを巡らしてきました。ファリスの著書は、この謎解きを試みたものです。ファリスは、歴史学的人口統計学の規律を用いて、日本全体の人口は対象となる時代の大半を通じてほとんど増加せず、約500年もの間にわたり約600万人のレベルを推移したことを、示しています。

この安定した人口の理由は複雑です。最も重要なことは、日本は、東アジア全域に蔓延した流行病に襲われ、貴族と平民の区別なく各世代において膨大な人数を失っていることです。水疱瘡、麻疹、おたふく風邪、赤痢といった疫病は、成人人口の間に広がり、結果として多種多様の社会的、経済的な混乱を招きました。飢饉は約3年に1度の割合で再発し、大衆の大半を栄養失調、さもなくば餓死に追い込みました。中央日本の生態系の劣化は、旱魃と土壌浸食の発生を生じ、しかもそれを多発させました。そして時おり勃発した戦争により、兵士がただの通りすがりの民衆を殺戮したころから、今日人々が称するところの「付随的 (巻き添え) 損害」が引き起こされました。また、ばらばらになった家族や幼児の死亡率の非常な高さなども、血縁関係のパターンの一つでした。要するに、700年から1150年までの間、ほぼすべての人々の生活は過酷なものだったのです。しかし、こうした経験すべてが人間資本への投資となり中世 (1150～1600年) に成果を表したことになり、したがってこの苦難は無駄ではありませんでした。

ウィリアム・ウェイン・ファリスは、10月30日にヌーン・レクチャーの講師として来訪しました。同氏は1981年にハーバード大学から博士号を取得し、現在、ハワイ大学マノア校の日本歴史学・文化学の十五代千宗室著名教授(ディスティングイッシュト・プロフェッサー) を務めています。同氏の研究および著作は、1700年までの日本の社会史と経済史に重点を置き、それには疫病や飢饉、農耕技術、商業、民衆の日常生活の側面を含みます。

2008年終わりから2009年初めにかけては、他にも多数の書籍が次々と出版される予定です。これら書籍の詳細につきましては、ニュースレター2009年冬季号を参照してください。日本研究センターから入手可能な全書籍の情報につきましては、ウェブサイト、www.umich.edu/~iinet/cjs/publications/ をご覧ください。

日本研究センター出版会総編集長
ブルース・ウィロビー

所長ご挨拶

第1ページより続く

は、大学、政府、民間セクターをリードする日本専門家です。皆がアン・アーバーの教室で始まった会話を継続していく方法を模索したいと私は考えています。

私の所長職は、過去5年間にわたりマーク・ウエストが当センターを効果的かつ賢明に率いてくれた後に就任したことから、より容易なものとなっています。状況が異なれば彼が平穏な学術研究と教鞭に戻るよう願うところですが、彼は、ミシガン大学ロースクールの学務担当の副学長に就任するために退任しました。ロー・スクールは才能を見て取ったわけです。マークには私たち一同お礼を述べたいと思います。

また、短期間ミシガン西部に移っていたCJSの長年のアドミニストレーター、深澤ゆりが当センターに戻ってきてくれたことを喜んでお伝えします。事務所の運営にかけては彼女の右に出る者はいません。おかえりなさいと声を大にして大歓迎したいと思います。

今学期もかなりの時間が経ちました。木々の葉が紅葉に染まり、新入の大学院生も既に周りにすっかりとけこんでいます。CJSの秋季プログラム、すなわち格別な講演者が名を連ねるヌーン・レクチャー・シリーズと日本アニメを特集した映画シリーズは、既に始まりました。できる限り奮ってご参加ください。また、プログラムをより良くするためのご意見もお聞かせください。

所長
ケン・イトウ

トヨタ招聘客員教授からの挨拶

「ではここで、アメリカ人がいかにして日本人にキスの仕方を教えたかについて、ウーロンゴン大学のマーク・マクレランド教授に説明してもらいます。」ミシガン大学にやってくる直前、地元オーストラリアの放送局の時事問題番組で、私はこのように紹介されました。このややもすると誤解を招きかねないサウンドバイトは、自業自得だと思いました。何しろ私は、自分の新しいプロジェクトを挑発的にも『*Kissing Is a Symbol of Democracy: Love and Sex in Japan under the American Occupation* (キスは民主主義のシンボルだ：占領下日本における愛と性)』と命名したのですから。さらに、インタビュアーが最も興味を持っていたのは日本のポルノの自動販売機であったことが判明し、その時点で自分が番組の意図を若干誤解していたことがはっきりしました。事実、私が提案していた調査は、占領下日本において公の場での接吻と言う行為が、いかにして、換喩的に身体と思考の自由のより幅広い伝達行動という話に巻き込まれ、少なくとも一部の知識人によっては両性間の新しい均等性の兆候、さらには民主主義の象徴とまで宣言されるようになったか、についてでした。番組中、私は、まるでフーコーさながらに、セックスは実際つまらないものだと自分は考えていると説明しようと試みました。私にとってこのプロジェクトの真にエキサイティングな点は、男女間の欲求を統制する「ハビトゥス (習慣)」と言ってもよいかもしれない新しいエピステーメーの誕生を初めて立証できる可能性なのです。はたして悲しいかな、そこまで来た時点で私の話はつまらないものと化し、私のセグメントはカットされ、即時に物議をかもしているウルトラローライズ・ジーンズの美的感覚についての話し合いに切り替えられました。

しかし、CJSに到着してからは、物事ははるかに首尾よく進みました。私は過去と現在の日本文化について超最先端を行く研究に従事しておられる教員の皆さんにすこぶる温かく歓迎され、心から嬉しく思いました。CJSのレクチャー・シリーズは私の格別な楽しみとなり、出張中でない限りテーマが自分の専門分野外であってもすべてのプレゼンテーションに出席しました。講義はいつも目から鱗の落ちる経験であり、新しい方法で思考し、新しい方向を見ることを奨励してくれ、特に、学生にとって滋養となる体験であるに違いないこれらレクチャーに実際に非常に多数の学生が出席する様を見たことは、私にとって大きな励みとなりました。また、CJSには、私の「Japan Queer Histories Seminar (日本クィア史セミナー)」を組織するうえでご支援いただいたことを感謝いたします。このイベントでは、中西部を拠点とする新鋭の学者が集まり、明治以降の日本において発展してきた広範囲にわたるセクシャルマイノリティとジェンダーマイノリティのサブカルチャーと慣行について協議することができました。このイベントへの出席ならびに私自身が行ったクィア・ジャパン学に関する数回の講演から、この分野の人気と学術的関心が高まっていることが示されました。私は実際、私が教鞭をとったCJSのコース「Genders, Transgenders and Sexualities in Japan (日本のジェンダー、トランスジェンダー、セクシュアリティ)」を履修した学生が、私の用意した資料を受け入れそれを創造的かつ有用な目的に活用した積極的で熱心な様子には、大いに勇気づけられました。

しかし、私の滞在中に最もエキサイティングだったのは、ハッチャー大学院図書館にあるマイクロフィッシュ機の前に何週間もぶっ続けに座って、ゴードン・W・プランゲ文庫の米軍占領下時代の大衆誌とそれに関連する検閲文書に没頭したことに間違いありません。これは、日本に関する英語での学問においてまだ充分に活用されていない驚異的な公文書資料です。この粕取り雑誌のジャンルは、長年にわたり一部の学者により、軽薄でどぎつく表面的なものとみなされてきましたが、実は、全世界的に流布された性の「知識」の話が日本の状況の中で現地化し特有化した混成状況を理解するうえでこのうえなく重要な資料なのです。この大規模な大衆エロ雑誌コレクションは、フーコーが描写するところの「従属下の知識の反逆」の証拠であり、そしてみなぎったエネルギー、皮肉および抵抗、すなわち「トップダウン型」民主主義を確立しようとする米占領軍の試みに反対する抵抗のみならず軍国主義の過去から受け継いだ身体と精神に課される全面的な「封建的」制約にも反対する抵抗の証拠でもあります。こうした忘れ去られた幾つかの戦略を再発見し、過去60年にわたり葬られてきた占領下日本の経験の幾つかのストーリーを語ることができた機会は、トヨタ招聘客員教授として最も満足の行く経験でした。私はこの先もずっとこのことを常に感謝し続けることでしょう。

2007～2008年年度
トヨタ招聘客員教授、社会学
(オーストラリア、ウーロンゴン大学)
マーク・マクレランド

学

教員・学生へのサポート

2008〜2009年度教員研究補助金発表

日本研究センターの2008〜2009年度教員向け研究補助金の受賞者が決定しました。この補助金プログラムは、日本の様々な側面を調査する個人あるいは団体のプロジェクトに対して授与されます。本年度の受賞者およびプロジェクト内容は以下のとおりです。

阿部・マーク・ノーネス (アジア言語文化学部およびスクリーンアート文化学部教授) には、本人のプロジェクト「Research Guide to Japanese Cinema (日本映画研究指針)」への研究助成金が授与されました。この資金援助は、図書館、美術館、公文書館で利用できる大小の規模の映画批評コレクションを人々に紹介する指針書を作成するプロジェクトを支援することになります。この指針書はさらに、重要な書籍や文献の注釈付図書目録も記載します。これが手元にあれば、日本映画を研究する人々は、必要な情報源のみならず新しい研究課題も見つけることができます。この指針書は、CJS出版会から出版されます。

シェリル・オルソン (心理学部教授) には、グループ研究プロジェクト「Behavioral Assessment of Emotion Regulation Processes in Japanese Preschoolers (日本人幼児の情動制御過程の行動評価)」への資金が授与されました。この資金は、オルソン教授のグループの日本人幼児の情動制御過程における個人的相違の調査に役立てられます。当初の研究 (Tardif, Wang, & Olson、印刷中) では、文化的経験が情動制御の発達に及ぼす影響についての我々の理解には大幅な差異が存在することが示されています。同グループは、今回の研究を通じて日本文化に独特な行動および社会化慣行を識別し、現行の文献における差異に対処できることを希望しています。

ジェニファー・ロバートソン (人類学部教授) には、本人のプロジェクト「Robo sapiens japanicus: Humanoid Robot Technology and the Posthuman Society (ロボ・サピエンス・ジャパニクス：人間型ロボット技術とポストヒューマン社会)」への資金が授与されました。この資金は、人間とロボットの相互のやり取り全般、および日本の社会のロボット化、特に脱工業化社会の未来の先駆に関する人類学的調査の実施に利用されます。このプロジェクトはさらに、大学、確立された多国籍企業、新参のロボティクス企業の間の競合状態を探索、分析し、そのなかで特にそれぞれの資金調達源、ロボット関連収益源、製品設計、およびマーケティング戦略、さらには人間型ロボットの将来のシナリオと適応に焦点を当てます。

トゥァイラ・ターディフ (心理学部教授) には、本人のプロジェクト「Emotion Understanding and Regulation in Japanese, Chinese, and U.S. Preschoolers and Adults (日本人、中国人、米国人の幼児および成人の感情の理解および制御)」への資金が授与されました。このプロジェクトの目的は、日本、中国、米国の男女幼児ならびにその両親である成人の感情の制御に関与する過程を描写し調査することにあります。

殿村ひとみ (歴史学部教授) には、本人のプロジェクト「Samurai and Their Women: Gender, Violence and the State in Japan's Premodern Age (侍と彼らの女たち：前近代日本におけるジェンダー、暴力、国家)」に資金が授与されました。この資金は、古代から中世後期までの兵 (つわもの) たちの歴史を探究する書籍の執筆を支えます。この書籍は、日本の前近代の兵に関連する特定的な類の暴力が13世紀から16世紀後半まで変遷するジェンダー、政治的権威、土地所有権の構成にどのような影響を及ぼしたかを、問いただします。

筒井清輝 (社会学部助教授) には、本人のプロジェクト「Corporate Social Responsibility in a Globalizing World: The Case of Japan (グローバル化する世界における企業の社会責任：日本の場合)」に資金が授与されました。この研究は、企業の社会責任 (CRS) を取り巻く国際活動の要因およびその結果的影響を検討します。この研究は、より多数の企業がどのような理由でグローバルCRSイニシアチブを確約するようになっているのか、そしてそうした確約が実際の企業の実務慣行にいかに影響し得るかについて理解を追求する、より大規模なプロジェクトの一環でもあります。

2008〜2009年度学生奨学金

メロン夏季奨学金
- **エリック・M・アガナ** (CJS修士課程)
- **ブライアン・C・ダウドル** (ALC博士課程)
- **シェリー・ファンチェス** (歴史学博士課程)
- **キム・ジウン** (人類学博士課程)
- **ガブリエル・コッフ** (人類学博士課程)
- **アンドレア・K・ランディス** (ALC博士課程)
- **スマ・K・パンディ** (CJS修士課程／建築学博士課程)
- **クリストファー・J・シャド** (CJS修士課程)
- **嚴昭貞** (オム・ソジョン) (歴史学博士課程)

インターナショナル・インスティテュート外国語奨学金
- **モリー・デジャルダン** (ALC博士課程)
- **リア・M・ゾラー** (CJS修士課程)

CJS基金奨学金
- **エリカ・アルパート** (人類学博士課程)
- **趙秀美** (人類学博士課程)
- **クレア・M・カウプ** (CJS修士課程／法学博士課程)
- **アリソン・M・キンガリー** (CJS修士課程)
- **ニッキ・A・ナバズニ** (CJS修士課程)
- **鈴木真理** (CJS修士課程)
- **王思潔** (CJS修士課程)
- **リア・M・ゾラー** (CJS修士課程)

ミシガン大学同窓会日本支部奨学金
- **猿谷弘江** (社会学博士課程)
- **照山絢子** (人類学博士課程)
- **梅田道生** (政治学博士課程)
- **横山泉** (経済学博士過程)

メロン奨学金
- **ウィリアム・S・バートン** (歴史学博士過程)
- **アーロン・P・プロフィット** (ALC博士課程)
- **リンダ・H・タカミネ** (人類学博士課程)

学士課程海外留学奨学金
- **ミッシェル・M・バロウズ** (LSA)
- **ハンナ・キム** (LSA)

外部奨学金
- **エリカ・R・アルパート** (人類学博士課程；尚友倶楽部奨学金、伊藤国際教育交流財団奨学金)
- **ブライアン・C・ダウドル** (ALC博士課程；文部科学省奨学金、国際交流基金博士研究員奨学金)
- **ガブリエル・コッフ** (人類学博士課程；インターナショナル・インスティテュート個人奨学金)
- **アンドレア・K・ランディス** (ALC博士課程；国際交流基金博士研究員奨学金)
- **デボラ・B・ソロモン** (歴史学博士課程；韓国国際交流財団奨学金)
- **ジェニファー・L・ライト** (CJS修士課程；伊藤国際教育交流財団奨学金)

これまでの催し物

第15回年次ミシガン・ジャパン・クイズ・ボウル

2008年3月15日、近代言語ビル (Modern Language Building) において、第15回年次ミシガン・ジャパン・クイズ・ボウル (MJQB) が開催されました。CJSが主催、指揮した今年のこのイベントには、ミシガン州のK–12 (幼稚園から高等学校まで) の24校から432名が出場し、過去最多記録を更新しました。生徒たちは、99チームに分かれ、5つの異なる部門で自分たちの日本語の話し言葉と書き言葉および日本文化の知識を駆使して競い合いました。このイベントは、在デトロイト日本国総領事館およびデトロイト日本商工会から支援を得て、CJSとミシガン日本語教師協会 (JTAM) が協賛します。

15回目を迎えた一日がかりの今年のイベントには、バトル・クリーク、ランシング、デウィット、アン・アーバー、ビヴァリー・ヒルズ、バーミンガム、クラークストン、ガーデン・シティ、ラヴォニア、ノバイ、オーク・パーク、スターリング・ハイツ、トロイ、ウェスト・ブルームフィールド、ウティカから生徒が集合しました。ボランティアの審査員、点数記録係、時間記録係は、イースタン・ミシガン大学、ミシガン州立大学、オークランド大学、シエナ・ハイツ大学、ウェイン州立大学、民間語学学校、そしてもちろんミシガン大学から参加しました。クイズ競技、文化関連のポスター／ディスプレイ／ロゴのコンテスト、授賞式に加え、今年のMJQBは、ミシガン州の姉妹県である滋賀県からやってきた芸術家による陶芸の実演、およびミシガン大学とイースタン・ミシガン大学の剣道クラブによる剣道の実演が特別に催されました。さらに、**藤井昭彦**在デトロイト日本国総領事館首席領事にもご訪問いただきました。

ミシガン・ジャパン・クイズ・ボウルのルーツは1993年に遡ります。同年、マドンナ大学の**志知朝江**教授とその学生**ケーテ・ステラ**が日米協会の全米ジャパン・ボウルに倣ってイベントを組織しました。

MJQBは毎年審査員を務める大学の日本語教師たちなくしては成り立ちません。

CJSは、2009年度のMJQBを3月14日に開催します。さらなる情報またはMJQBでボランティアをするための詳細につきましてはジェーン・オザニッチ (jozanich@umich.edu) にご連絡ください。

CJS、修士課程卒業生を祝福

4月、CJSの修士課程の学生３名が学年度末を祝うレセプションで表彰されました。CJSの大学院課程ディレクターである**レスリー・ピンカス** (歴史学部准教授) が、**アリッサ・ホウィー** (4月卒業)、**マイケル・デッカー** (4月卒業)、**シモーン・ヘロン** (8月卒業) の3名の修学を称えて祝福の辞を述べました。

(左から右へ) ：高田あづみ (学務コーディネーター)、レスリー・ピンカス (大学院課程ディレクター、歴史学部准教授)、シモーン・ヘロン、アリッサ・ホウィー、マイケル・デッカー、殿村ひとみ (歴史学部教授)

地元の剣道クラブのメンバーが観客のためにナレーション付きの実演を行いました。

「トップ・オブ・ザ・パーク」での盆踊り

アン・アーバーの夏は、祝福のときです。この精神を毎年具現化するのがアン・アーバー・サマー・フェスティバルのトップ・オブ・ザ・パークです。CJSは、今年はジャパン・ソサエティー・オブ・デトロイト (JSD) ウィメンズ・クラブによる6月22日の盆踊りをスポンサーすることでこの式典に参加しました。クラブのメンバー、男性、および子どもたちが、盆踊りを3曲踊りました。このパフォーマンスは、一般公衆を対象に日本の文化、歴史、社会の様々な側面を教育することを任務とするCJSのコミュニティ・アウトリーチ・コーディネーターによってコーディネートされました。大学院生や個人がこうしたアウトリーチ活動に参加する機会は、年間を通じて数多くあります。活動の内容は、日本に関係する多種多様の主題に関するレッスンを教えたり、ワークショップおよびその他の公のイベントで助手をすることなどです。こうした活動への参加を希望する方は、ヘザー・リトルフィールド (hclittle@umich.edu) までご連絡ください。

盆踊りを踊るJSDウィメンズ・クラブのコーディネーター、前田和歌子さん

セ　ン　タ　ー　催　し　物

ゴードン・W・プランゲ文庫ワークショップ

戦後日本において発行された印刷物の世界で最も包括的なコレクションであるゴードン・W・プランゲ文庫を、ミシガン大学アジア図書館が一版所蔵していることは、『伝書』の定期購読者の方にとっては馴染みある事実かもしれません。プランゲ文庫は、新聞、書籍、パンフレット、雑誌、通信社の写真、ポスター、地図などから構成されており、同時代の分野の研究者と学者にとってはまさしく情報の宝庫です。11月5日、CJSはメリーランド大学のゴードン・W・プランゲ文庫の原本のキュレーターである**坂口英子**氏を迎えました。坂口氏は、ハッチャー大学院図書館で「Gordon W. Prange Collection: Japan 1945–1949: Its Resources and Search Tools (ゴードン・W・プランゲ文庫：日本1945～1949年：リソースと検索ツール)」と題したワークショップを実施しました。ゴードン・W・プランゲ文庫の詳細情報につきましては、http://www.lib　.umd.edu/prangeをご覧ください。

CJSのお餅つき

2009年度お餅つきは、1月10日に開催されます。昨年までと同様、いらっしゃる方々には臼と杵を用いて実際にお餅をついてみる機会、そしてつきあがったら出来立てのほやほやのお餅をいろいろなトッピングで食べてみる機会を楽しんでいただけます。その他の催し物には、常に人気の書き初め、折り紙、紙芝居、日本の諸々のゲームが含まれます。また、雅 (琴と尺八の演奏グループ)　が生演奏をします。お餅つきに関する詳細情報を知りたい方、このイベントのボランティアに関心のある方は、CJS　(umcjs@umich.edu) までご連絡ください。

2009年3月12日ヌーン・レクチャー・シリーズ講師、フィリップ・ブラウン

2009年冬季ヌーン・レクチャー・シリーズ

CJSの冬季ヌーン・レクチャー・シリーズは、1月22日に開始、4月2日に終了します。レクチャーの主題は、戦時中の日本の食べ物から、子どもに「可愛い」という概念を教えること、さらには徳川時代の日本の政治に至るまで、多岐にわたります。このシリーズの講師10名の中には、**スーザン・バーンズ** (シカゴ大学准教授)、**フィリップ・ブラウン**　(オハイオ州立大学准教授)、**サビーネ・フリューシュトゥック** (カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授)　が含まれます。全講師のリストについては、http://www.ii.umich.edu/cjs/eventssprograms/noonをご覧ください。

上の丸内：書き初めに取り組む少女

上：CJSのお餅つきで楽しめる大人用、子ども用の様々なゲーム

下の丸内：蒸したお米をつく直前に臼に移す羽原靖彦さんと郁さんご夫妻

エリカ・R・アルパート (人類学博士課程) は今年、横浜のアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターに留学します。尚友倶楽部奨学金を取得しました。

トム・ブラックウッド (CJS修士号1998年卒) は、東京に戻り、東京大学社会科学研究所の准教授に就任しました。『*Social Science Japan Journal* (SSJJ、オックスフォード・ジャーナル)』誌の編集長に就任します。

デイヴィッド・J・キャンベル (CJS修士号1989年卒) は、帯広畜産大学の英語教師に就任しました。

モリー・デジャルダン (ALC博士課程) は、カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン (CWAJ) のフェローシップを取得し、横浜のアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターに留学しました。2008年秋には当大学情報学部で情報科学修士課程 (MSI) を開始しました。また、2008～2009年度の情報学部メリット奨学金を取得しています。MSIでは図書館情報学を専攻し、日本語資料を専門とする学術司書になることを希望しています。

ブライアン・ダウドル (ALC博士課程) は、文部科学省奨学金を獲得し、博士論文「Reprinting History: The Period Novel, the roman histrique and the Historical Consciousness in Meiji Japan (歴史を再版して：明治時代の時代小説、歴史小説、および歴史意識)」のための調査を日本で実施中です。

ニール・ハリソン (CJS修士号／経営修士号2005年卒) は、最近、ソニー株式会社に入社しました。ニューヨーク市の米国ソニー本社に勤務し、上級経営陣をサポートする特別プロジェクトに従事します。1歳の息子イヴァンを含む家族と共に、ニューヨーク市郊外のロングアイランドはグレート・ネックに住んでいます。

アリッサ・ホウィー (CJS修士号2008年卒) は、「語学指導等を行う外国青年招致事業 (JET)」に合格し、日本で英語を教えることになりました。

鎌田伊佐生 (経済学博士課程) は、CJSの元ブリーフィング・フェローシップ奨学生兼元メロン財団フェローシップ奨学生です。2008年秋にピッツバーグ大学公共政策大学院 (GSPIA) の教員となりました。

アンドレア・K・ランディス (ALC博士課程) は、国際交流基金博士研究員奨学金を受け、博士論文「Turn-of-the-Century Japanese Literature and the Culture of Serialization (世紀末の日本文学および連載文化)」のために日本で調査を実施しています。

ブルック・レースラム (CJS修士号2008年卒) は、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでの1年間の日本語集中コースを6月に修了し、市場調査会社株式会社エー・アイ・ピーに就職しました。同社の本社は東京にあり、現在、品川区に住んでいます。

アンエリス・ルアレン (人類学博士号2006年卒) は、カリフォルニア大学サンタバーバラ校 (UCSB) 東アジア言語文化学部の近代日本文化研究学科の助教授職の内定を受諾しました。北海道大学での2年間の博士研究員を終了した後、2009年1月にUCSBに就任することになります。

ホイト・J・ロング (日本文学博士号2007年卒) は、博士論文「On Uneven Ground: Provincializing Cultural Production in Interwar Japan (不均衡な地盤の上で：両世界大戦間の日本における地方化文化の創生)」により、ラッカム大学院優秀博士論文賞を受賞しました。彼の論文はミシガン大学での700以上の博士論文の中から選ばれた8つの受賞論文の一つでした。

彼の研究は、日本の著名作家の宮沢賢治 (1896～1933年) の小説を地域の近代化の表現として捉えたアプローチをとり、ほぼ常に都会および大都市圏の現象として理論化される近代が、岩手県との強い結び付きが認識されている宮沢によっていかに扱われているかを調査します。論文は、東京都外での出版の緊急事態、大都市圏の作家たちにより創造された童話ジャンルの流用、宮沢自身の科学と民話の大都市圏的な話への従事、宮沢の著作と地方エリートが抱く進歩に対する見解との間の相互作用、宮沢が理想郷的農耕コミュニティ設立に向けて注いだ努力など、多数のノードに焦点を当て、一地方作家の近代との苦闘が東京から生まれたいかなるものとも著しく異なった文学および近代観をどのように生み出したかについてケーススタディを提供しています。

ミシガン・ソサエティー・オブ・フェローズのメンバーとしての役割において博士論文賞の表彰文を執筆したCJSアソシエートの竹中晶子は次のように述べました。「周辺部の近代化の過程に慎重な注意を払うことにより、ロング博士は、近代化の時間的な次元のみならず空間的な次元をも実証している…。この研究成果は、公表されるや否や、文学の分野だけでなく歴史学およ

ホイト・ロング

学生・卒業生短信

び文化研究の分野においても大きな影響力を持つ文献となることは確実である。」

ロングは現在、バード大学の日本研究の助教授です。ケン・イトウが委員長を務めた彼の博士論文委員会のメンバーには、ジョン・ノット、リディア・リウ、レスリー・ピンカス、ジョナサン・ズウィッカーも含まれました。

マリア・ソニア・メフト・ゴンザレス (CJS修士課程) は、日本のアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターで6月19日から8月1日まで夏期講座に出席しました。

ニッキ・ナバズニ (CJS修士課程) は、5月後半から8月前半まで、米国国務省を通したインターンシップ・プログラムに参加し、名古屋から広島までの17の府県を対象とする駐大阪・神戸アメリカ総領事館の広報課に勤務しました。この期間中、現地のNPO／NGOおよび他の地域コミュニティ団体のアウトリーチ・イベントを助け、地方大学を訪問して米国政府支給の英語教材の利用に関するコンサルテーションを手配し、6月26・27日に京都で開催されたG8外相会議専用に設置されたプレス・ファイリング・センターで働きました。このインターンシップの間に、米国務長官に面会すること、また、報道陣の一員としてプレス・コンファレンスに出席することができました。

スマ・パンディ (建築学博士課程／CJS修士課程) は、CJS夏季奨学金から援助金を受け、建築家の伊東豊雄に師事するために東京に飛ぶことができました。日本滞在中、日本の都市、特に東京における公共スペースと民間スペースの関わりに関するCJS修士課程と博士課程の研究のために現場調査を実施しました。伊東氏の事務所では、2011年完成予定のカリフォルニア大学バークレー校美術館／パシフィック・フィルム・アーカイブの新築プロジェクトに助力しました。

リチャード・スメサースト (CJS修士号1961年卒／歴史学博士号1968年卒) は、最近、『*From Foot Soldier to Finance Minster: Takahashi Korekiyo, Japan's Keynes* (歩兵から大蔵大臣まで：日本のケインズ、高橋是清)』と題する書籍を出版しました (Harvard University Asia Center, 2007年)。また、2007年10月にハーバード大学ウェザーヒル・センターで、2008年6月に東京の国際文化会館で同著について講演を行いました。2008年秋～2009年冬には日本語訳が東洋経済新報社から出版される予定です。

クリスティーナ・バシル (ALC博士課程) は、2008年秋にコルゲート大学で日本語および日本文学のテニュア・トラック (終身在職コース) に赴任します。

ヨコタ = カーター啓子 (図書館情報学修士号1997年卒) は、2008年8月、北米日本研究資料調整協議会 (NCC) の次期会長に選出されました。2009年の1年間を務め上げてから、3年間を一期とするNCC会長に正式就任 (2010～2012年) します。ヨコタ = カーターはワシントン大学東アジア図書館の日本学研究司書であり情報リテラシーのコーディネーターでもあります。

ジェニファー・L・ライト (CJS修士課程) は、日本研究と人文科学における芸術と思想の二重専攻で2008年4月に学士号を優等で取得しました。CJS修士課程に合格しましたが、伊藤国際教育交流財団から奨学金を得て日本大学でドイツの思想と美学が1868年から1945年までの日本文学に及ぼした影響に関する調査を実施するために、入学を1年延期しました。

ヤマグチ・ノリコ (CJS修士号2006年卒) は、シカゴ大学でのコースを修了し、予備試験の準備中です。この夏は、東京の国連難民高等弁務官 (UNHCR) 事務所でインターンを務めました。

日本研究センターは、2008年秋季にミシガン大学に入学した以下の学生を歓迎します。

CJS修士課程

アリソン・M・キンガリー
(ディキンソン大学)
銘苅エリザベス (ミシガン大学)
ジョー・トルズマ
(ローズ・ハルマン工科大学)
楊陽 (広東外語外貿大学)

CJS修士課程／法学博士課程

クレア・カウプ (ニューヨーク大学)
ベンジャミン・ポッター
(バージニア工科大学)

以下は2008年秋季に日本関連プログラムに入学した大学院生です。氏名の右には各自の専門分野を記します。

ウィリアム・S・バートン (歴史学)
エヴァン・ダン (法学)
メガン・ヒル (民俗音楽学)
アンドリュー・T・ノースコグ (建築学)
アーロン・プロフィット (仏教学)
リンダ・H・タカミネ (人類学)

CJS修士課程2008年4月卒業生

マイケル・S・デッカー (CJS修士号)
アリッサ・ホウィー (CJS修士号)

パール・カッセル (歴史学部) は、サラ・シュニーウインド編集による『*Long Live the Emperor: The Uses of the Ming Founder across Six Centuries of East Asian History* (天皇陛下万歳：6世紀間にわたる東アジア史における明王朝創立者の利用)』(Minneapolis: Society for Ming Studies, 2008) の中で論文「The Legacies of Ming Taizu in Japan (日本における明太祖の遺産)」(pp. 329–44) を発表しました。

福岡真紀 (アジア言語文化学部) は、2008～2009年度ロバート・アンド・リサ・セインズベリー・フェローシップを受けました。フェローシップ年度中に、ロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) で『*Between Seeing and Knowing: Representing the Real in Japan, 1830–1872* (見ることと知ることの間に：1830～1872年の日本の現実を表す)』の原稿を完成させる計画です。このプロジェクトは、徳川時代の本草学 (中国の薬学) の前後関係において明治時代になって写真を示すようになった用語である「写真」、ならびに「写真」であるとみなされた絵画的挿絵の修正利用を調査するものです。

蒲島郁夫 (CJSトヨタ招聘客員教授2002～2003年) は、3月23日に熊本県知事に選出されました。選挙前は、東京大学の政治学教授でした。

阿部マーク・ノーネス (アジア言語文化学部およびスクリーンアート文化学部) は、『*Cinema Babel* (シネマ・バベル)』(University of Minnesota UP) を出版しました。この著作は、映画の翻訳問題に焦点を当てることにより日本映画をグローバルな視点から再考する試みです。また、最近、北京で開催された豊科ドキュメンタリー映画祭で審査員を務めました。現在は、ハーバード大学ライシャワー日本研究所の客員教授です。

ジェニファー・ロバートソン (人類学部) は、5、6月にイスラエルのファン・レーア・エルサレム研究所の客員として、「Aging, Trauma and Robotherapy in Japan (日本における高齢化、トラウマ、ロボットセラピー)」と題した講演を行いました。テルアビブ大学でもジェンダーとテクノロジーに関する客員セミナーを行いました。また、研究がイスラエルの主要技術・実業新聞である『*The Marker*』紙 (6月13日号) に全面記事として掲載されました。秋には全米人文学基金の日本の社会科学先端研究フェローシップとCJS教員研究補助金からの資金援助を受けて日本に滞在し、日本 (ならびにイスラエルとイタリア) における人間型ロボットテクノロジーとポストヒューマン社会に関するフィールドワークと公文書調査を継続しました。ロバートソン教授の研究は『ニューズウィーク日本版』に掲載されました。また、6月27日、コロンビアのボゴタのラジオ局La F.M.のトークショーで日本人の血液型信仰とその慣行について生放送インタビューを行いました。プリンストン大学、ウッドロー・ウィルソン国際学術センター (ワシントンDC)、カリフォルニア大学サンタバーバラ校からそれぞれ招待を受けロボティクス研究に関する講演を行い、さらに5月にはデトロイト現代美術館 (MOCAD) の川久保玲 (コム・デ・ギャルソン) 展でのパネルディスカッションにも招かれました。

最近の出版としては以下が挙げられます。1)「Ema(絵馬)-gined Community: Votive Tablets and Strategic Ambivalence in Wartime Japan (絵馬から想像されたコミュニティ：戦時中の日本における絵馬と戦略的アンビバレンス)」(『*Asian Ethnology*』、67(1); 43–78, 2008)、2)「Science Fiction as Public Policy in Japan: Humanoid Robots, Posthumans, and Innovation 25 (日本における公共政策としてのサイエンスフィクション：人間型ロボット、ポストヒューマン、およびイノベーション25)」(『*Asia Program Special Report*』no. 140, Woodrow Wilson International Center for Scholars, Washington, D.C. (2008))、3) ガイ・ポドラー編集『*War and Militarism in Modern Japan: New Aspects* (近代日本の戦争と軍国主義：新しい側面)』(Folkstone: Global Oriental, 2008, 4) 中の「*Ethnicity and Gender in the Wartime Japanese Revue Theater* (戦時中の日本のレビュー舞台における民族性とジェンダー)」、4) 荻野美穂編集『<性>の分割線―近・現代日本のジェンダーと身体』(青弓社2008年) 中の「日本初のサイボーグ？ミスニッポンと優生学と戦時下の身体」。

殿村ひとみ (歴史学部) がこのニュース欄に最後に寄稿してから数年になります。殿村教授はその間、『歴史評論』第660号 (pp.12–22、2005年4月) の「特集：海外の日本の女性史ジェンダー史研究」にエッセイ「アメリカにおける前近代日本女性史研究の現状」を執筆しました。同じく2005年にはウッドロー・ウィルソン国際学術センターにおけるアジア・プログラムのパネル・プレゼンテーションに参加し、その講義「Royal Roles, Wider Changes: Understanding Japan's Gender Relations from a Historical Perspective (皇室の役割、より広範な変化：日本のジェンダー関係を歴史的観点から理解する)」はエイミー・マックリーディ・サーンストロム編集の『*Japanese Women: Lineages and Legacies* (日本女性：血統と遺産)』(Washington DC: 2005, pp. 13–26) にて出版されました。2006年には2本の論説、すなわち「Coercive Sex in the Medieval Japanese Court: Lady Nijô's Memoir (中世日本の宮中における強制性交：後深草院二条の日記)」(『*Monumenta Nipponica*』 61.3 (Fall, 2006), pp. 283–338) および「Gender and Sexuality in Premodern Japan (前近代日本におけるジェンダーとセクシュアリティ)」(ウィリアム・M・ツツイ編集『*Blackwell Companion to Japanese History* (ブラックウェル・コンパニオン：日本史)』(Blackwell, 2006), pp. 351–71) を発表しました。出産の慣行に対する社会の認識に殿村教授が寄せる関心は、「Birth-giving and Avoidance Taboo: Women's Body versus the Historiography of *Ubuya* (出産と忌みのタブー：女性の身体対産屋の歴史的叙述)」と題したエッセイとなり『*Japan Review*』(19 (March 2007), pp. 3–45) に発表され、また、ジェイムズ・C・バクスターとジョシュア・A・フォーゲルの共同編集による『*Writing Histories in Japan: Texts and Their Transformations from Ancient Times through the Meiji Era* (日本における歴史の綴り：古代から明治時代までのテクストおよびその変遷)』(国際日本文化研究センター、2007年、pp. 41–84) にも同様の論文「Rewriting the *Ubuya*

(Parturition Hut): Its Historicity and Historiography (産屋を書き改めて：その史実性および歴史的叙述)」が発表されました。以上については、国際交流基金、CJS、歴史学部、女性研究プログラム、女性・ジェンダー研究所からの寛大な援助に感謝しています。現在は、1580年以前の日本の侍、ジェンダー、および暴力を取り扱った書籍の原稿の仕上げに入っています。最後に、CJS来訪者にはお馴染みの仲間であったグリーンイグアナ、のびたの悲しい死を追悼します。

筒井清輝 (社会学部) は、過去1年間に6本の出版 (近刊1本を含む) を行いました。うち3本は世界の人権のダイナミクスに関する共著 (「Global Human Rights and State Sovereignty: State Ratification of International Human Rights Treaties, 1965–2001 (世界の人権と国家の主権：1965～2001年の国際人権条約)」(『*Sociological Forum*』)、「Even Bad States Do Good Things: International Human Rights Law and the Politics of Legitimation (劣悪国家さえ善行を行う：国際人権法および立法化の政治)」(『*International Sociology*』)、「Justice Lost!: The Failure of International Human Rights Law (正義の喪失！：国際人権法の失敗)」(『*Journal of Peace Research*』))であり、後の3本は日本の人権政策に関するもので、うち2本はファジ・シンとの共著 (「Constructing Social Movement Actorhood: Resident Koreans' Activism in Japan since 1945 (社会運動活動家の構成：1945年以降の日本における在日韓国・朝鮮人のアクティビズム)」(『*International Journal of Comparative Sociology*』)、「Global Norms, Local Activism and Social Movement Outcomes: Global Human Rights and Resident Koreans in Japan (世界的基準、現地アクティビズム、社会運動の結果：世界の人権と在日韓国・朝鮮人)」(『*Social Problems*』))、そして「The Trajectory of Perpetrators' Trauma: Mnemonic Politics around the Asia-Pacific War in Japan (加害者のトラウマの歴程：日本におけるアジア太平洋戦争を取り巻く略式政治)」(『*SocialForces*』) です。筒井助教授はさらに、書籍『*Networked for Change: Transnational Social Movements in a Global Era* (変化を求めネットワークされて：グローバル時代における国際的社会運動)』を共著する契約を締結し、また、世界の人権と日本国内の少数民族社会運動について別の書籍を執筆するために全米人文学基金 (NEH) から奨学金を受けました。また、ミシガン大学にて日本の社会学に関するコースの教鞭をとり、日米財団により組織された米日リーダーシップ・プログラムにおいて日本代表を務めました。

CJSの教員、卒業生、友人による新刊書

エスペランザ・ラミレズ・クリステンセン (アジア言語文化学部) は最近、スタンフォード大学出版会から書籍を2冊出版しました。『*Emptiness and Temporality: Buddhism and Medieval Japanese Poetics* (空と無常：仏教と中世日本の詩歌)』(2008年) は、中世における歌の理解に基礎を施した「空」と「無常」という仏教の2つの概念を出発点として、現代西洋理論、特にデリダ派の差延と脱構築およびハイデッガーの解釈学的現象学との類似性を考察しています。『*Murmured Conversations: A Treatise on Poetry and Buddhism by Poet-Monk Shinkei* (囁かれた会話：僧侶歌人心敬による歌および仏教に関する専門書)』(2008年) は、仏教の実践の目標である「悟り」を達成しそれを言語を通じて表明する方法として歌を徹底的に解釈したものであることから中世日本の最も代表的な歌論専門書とみなされている『ささめごと』(1463～1464年) の初の完訳書です。ラミレズ・クリステンセン教授の解説は、広範な注釈と共に、和歌と連歌との関連において、また全般的には日本古典美学の歴史と特定的には心敬の思考の脈絡において、そして歌や能などの文化的慣行の現代的理解における仏教の役割において、この専門書の各章の意義を解明しています。

この専門書の著者である心敬 (1406～1475年) は、彼自身も大歌人であり、室町時代の最も優れた連歌師として評価されています。彼の伝記および歌の英訳は、ラミレズ・クリステンセン教授著の『*Heart's Flower: The Life and Poetry of Shinkei* (心の花：心敬の人生と歌)』(Stanford University Press、1994年) から入手できます。今回の2巻から成る作品の出版により、最初に『*Heart's Flower*』で探索されたプロジェクトが完成を見ることになりました。つまり、両作品合わせて、歌、哲学、仏教、そして伝統的な日本の芸術的慣行に長きにわたりしみ込んでいる特定的な精神的気風の特徴を探求するラミレズ・クリステンセン教授の取り組みを表したわけです。この作品を完成させる機会はラミレズ・クリステンセン教授が2005～2006年にハーバード大学のエドウィン・O・ライシャワー日本研究客員教授に任命されたことにより実現し、また、この出版はCJSからの援助金により補助されました。

エスペランザ・ラミレズ・クリステンセン

お知らせ

CJS、新オフィスに移転

去る夏、ミシガン大学インターナショナル・インスティテュート (II) の諸々のセンターは、大規模なスペース再配分プロジェクトの対象とされました。6月から8月にかけて、IIのほぼすべてのセンターのオフィスが社会福祉学部ビル (School of Social Work Building) 内で移動しました。その結果、CJSの新オフィスは、同様に「タイトルVI」助成金を受けている東アジア・ナショナル・リソース・センターである中国研究センターおよびコリア研究センターと共に同ビル4階に居を構えました。CJSの新所在地は以下のとおりです。

Center for Japanese Studies
1080 South University, Suite 4640
Ann Arbor, MI 48109-1106

日本語プログラム、第2回学習旅行で名古屋と京都に

ミシガン大学アジア言語文化学部のビジネス日本語課程と日本語第3年課程から学生8名が選出され、5月6日から同13日まで、学習旅行「日本におけるビジネス：モノづくりを通して日本を見る」に参加しました。今回の旅行の目的は、学生が、日本の文化の側面を識別、探索し、現場訪問を通じて観察される製品、観点、および慣行の間の関係を考慮することにより、自らが日本語課程において身につけた語学力を活用することでした。

学生たちは、ALCの講師である**近藤純子**と**渡会尚子**により引率され、名古屋と京都に所在する数社の企業、ビジネス関連博物館、および文化施設を訪問しました。これらの訪問中、彼らは実体験を通じて日本の文化と人々を学び知りました。訪問先ハイライトの一部には、トヨタ自動車、産業技術記念館、読売新聞、日本銀行、アサヒビール、老松 (京和菓子の老舗)、喜多窯霞仙 (陶芸の窯元) が含まれます。

参加した学生のコメントの一部を挙げます。

「各分野の専門家による非常に興味深い課題に関する講義を、非常に親密で間近な設定で聴き、話をし、質問する機会を得ました。」

「この旅行は、格段本物の経験を提供してくれ、一生心に残る楽しさいっぱいの思い出を与えてくれました。」

この学習旅行は、国際プログラム事務所 (OIP) により組織されCJSにより一部資金援助される海外留学カリキュラム融合 (ISAC) プログラムの一環として実施されました。

(近藤純子記)

[上：] 読売新聞訪問

[右上：] トヨタ自動車を訪問した近藤純子のクラスの学生たち

[右下：] 喜多窯霞仙で陶芸レッスンに出席した学生

CJS、深澤ゆりの復帰を歓迎

CJSの元アドミニストレーター、**深澤ゆり**が2008年9月にCJSに復帰しました。2001年から2007年までの役職を再び担い、当センターの財務および人事を管理します。連絡先はyurif@umich.eduです。

CJS、舞踏パフォーマーのレジデンシーをスポンサー

舞踏パフォーマー、向雲太郎

CJSは、舞踏パフォーマーである**向雲太郎**の2008年秋季レジデンシー(研修資格)をスポンサーする一端を担いました。向氏は、有名な舞踏集団の大駱駝鑑のプリンシパル・ダンサー兼振付師です。同氏は、11月11日に、CJSとミシガン大学ワールド・パフォーマンス研究センターの協賛によるプレゼンテーションを行いました。そして12月5、6日、ドゥデルスタット・ビデオ・スタジオでのパフォーマンスをもってミシガン大学滞在の幕を閉じました。

CJSの冬季トヨタ招聘客員教授、発表される

平野克弥教授はこの1月、CJSの第33回トヨタ招聘客員教授としてアン・アーバーに到着します。2006年にコーネル大学歴史学部助教授に就任した平野教授は、日本史と文化史を専門としています。同志社大学から政治学で学士号、バーミンガム大学で文化研究学で修士号、シカゴ大学から歴史学で博士号を取得しました。平野教授の最も最近の出版物には、テツオ・ナジタ著の『*Doing Intellectual History*』の翻訳・編集版である『Doing思想史』(2008年)、およびエリザベス・リレホジョ編集『*Acquisition: Japanese Arts and Their Owners* (取得：日本の芸術品とその所有者たち)』(New York Floating World Edition, 2007) の中の一章「Social Networks and Production of Public Discourse in Edo Popular Culture (江戸の庶民文化における社交的ネットワークと対話的文学)」が含まれます。現在は、『*Politics of Dialogic Imagination: Power and Popular Culture in Early Modern Japan* (対話的想像の政治：1750～1890年の近代日本初期における権力と庶民文化)』と題する書籍の原稿を執筆中です。

CJS冬季トヨタ招聘客員教授、平野克弥

CJSでの学期中、平野教授は、短期コースを教授し、3月19日にはヌーン・レクチャーで「*Toward a New Understanding of the Political in Tokugawa Japan* (徳川幕府の政治の新しい理解に向けて)」と題したプレゼンテーションを行います。CJSでは、1月14日に平野教授の歓迎レセプションを催します。

RCの日本語テーブル、ボランティア募集

ミシガン大学のレジデンシャル・カレッジ (RC) は、秋季と冬季に日本語集中講座を提供しています。課外活動として両期を通じて1週間に2回、1時間の日本語テーブルが中央キャンパスのイースト・クワドラングル (East Quadrangle) ビルで実施されます。集中講座を取る学生は、より実際的でリラックスした雰囲気の中で聴き取りと会話の練習を行うために、少なくとも1週間に1回はこの会話テーブルに参加することを義務付けられます。そこで日本語を話す学生や住民の方々のボランティアが必要です。ボランティアに関心のある方は、RCの日本語プログラム講師、佐藤哲也 (satoot@umich.edu) までご連絡ください。詳細につきましては、ウェブサイト (http://sitemaker.umich.edu/rcjapanese) をご覧ください。

アジア図書館旅費補助金

2008年7月1日から2009年6月30日までの間にミシガン大学アジア図書館所蔵資料の活用を希望する日本研究者を対象に、旅費、宿泊費、食費、コピー料金を軽減する目的の補助金として、最高700ドルが提供されます。図書館に関する詳細情報につきましては、http://www.lib.umich.edu/asiaをご覧ください。または図書館アシスタントに(734) 764-0406 までご連絡ください。

関心ある研究者の方は、申請書、研究内容および所蔵資料の利用の必要性に関する簡略説明書 (250語以内)、利用を希望する資料のリスト (申請前に図書館のオンライン目録で該当資料が利用可能とされていることを確認してください)、最新の履歴書、予算、旅程案を、当センター宛に提出してください。

当センターでは、メール (umcjs@umich.edu) あるいは下記宛の郵便での申請を、2008年5月31日まで受け付けています。

Asia Library Travel Grants
Center for Japanese Studies
Suite 4640, 1080 S. University
The University of Michigan
Ann Arbor, MI 48109-1106

CJSの卒業生および元客員研究員からの投稿記事募集

CJSでは、当センターの卒業生および元客員研究者によるCJSまたはミシガン大学での経験を記した短い記事を募集しています。ご自分のストーリーを添えてumcjs@umich.eduまでご連絡ください。

9月

17日 映画上映&討論会：『The Dybbuk/Between Two Worlds (二つの世界の間)』ツヴィカ・セルペル (テルアビブ大学東アジア研究・演劇学科准教授、東アジア研究学科長、演出家兼振付師)。午後6時30分、社会福祉学部ビル (School of Social Work Building) 1636号室 (ジーン&サミュエル・フランケル・ユダヤ研究センターとの協賛)。

18日 ヌーン・レクチャー*：「Crossing Boundaries: Japanese Classical Theatre and Cinema – Practice and Research (枠を越えて：日本古典演劇と映画、稽古と研究)」ツヴィカ・セルペル (テルアビブ大学東アジア研究・演劇学科准教授、東アジア研究学科長)。

19日 マスター・クラス：ツヴィカ・セルペル (テルアビブ大学東アジア研究・演劇学科准教授、東アジア研究学科長) によるプレゼンテーション。午後3〜6時、ウォルグリーン・ドラマ・センター (音楽演劇舞踏学部との協賛)。

25日 ヌーン・レクチャー*：「Law Schools under Siege: Any Way Out? (包囲されるロースクール：出口はあるのか?)」宮澤節生 (青山学院大学法務研究科教授) (ミシガン大学国際法比較法センターとの協賛)。

10月

2日 ヌーン・レクチャー*：「在日 (在日コリアン)」ジョン・リー (カリフォルニア大学バークレー校社会学部クラス・オブ1958著名教授)。

5日 CJS無料映画上映**：『AKIRA』大友克洋監督 (1988年、124分、英語吹替)。

9日 ヌーン・レクチャー*：「Horrors of the Medieval Imagination: The Illustrated Lives of the Demon Shuten Dôji (中世の想像力の恐怖：図説による鬼、酒呑童子の生き様)」ケラー・キンブロー (コロラド大学ボルダー校文学部助教授)。

10日 CJS無料映画上映**：『ホーホケキョとなりの山田くん』高畑勲監督 (1999年、104分、英語字幕付日本語)。

13日 特別講演：「Korean Buddhism in an East Asian Context (東アジアの前後関係における韓国の仏教)」ロバート・バズウェル (カリフォルニア大学ロサンゼルス校仏教研究学センター所長、仏教学教授)、午後4時、社会福祉学部ビル (School of Social Work Building) 1636号室 (ミシガン大学の中国研究センター、コリア研究センター、南アジア・東南アジア研究センターとの協賛)。

16日 ヌーン・レクチャー*：「Japanese National Identity: Its Recent Evolution and Impact on International Relations (日本の国家的アイデンティティ：最近の進化およびそれが国際関係に及ぼす影響)」ギルバート・ロズマン (プリンストン大学社会学マスグレイブ著名教授)。

17日 CJS無料映画上映**：『もののけ姫』宮崎駿監督 (1997年、134分、英語吹替)。

23日 ヌーン・レクチャー*：「The Last Tuna? Japanese Food Culture and Global Fisheries (最後の鮪？日本の食文化と世界の漁業)」テオドル・ベスター (ハーバード大学社会文化人類学部日本研究教授)。

24日 CJS無料映画上映**：『メトロポリス』りんたろう監督 (2001年、108分、英語吹替)。

30日 ヌーン・レクチャー*：「Daily Life and Demographics in Japan, 700–1150 (日常生活と人口、700〜1150)」W・ウェイン・ファリス (ハワイ大学マノア校歴史学部十五代千宗室著名教授)。

31日 CJS無料映画上映**：『死者の書』川本喜八郎監督 (2005年、70分、英語字幕付日本語)。

11月

5日 ワークショップ：「G. W. Prange Collection: Japan 1945–1949: Its Resources and Search Tools (ゴードン・W・プランゲ文庫：日本1945〜1949年：リソースと検索ツール)」坂口英子 (メリーランド大学ゴードン・W・プランゲ文庫)。午後1時〜3時30分、ハッチャー大学院図書館100号室。

6日 ヌーン・レクチャー*：「Kireru? (or Just Plain Mad): Emotion Regulation in Japanese, Chinese, and U.S. Preschoolers (切れる？：日本人、中国人、米国人の幼児の感情制御)」トウァイラ・ターディフ (ミシガン大学心理学部教授)。

7日 CJS無料映画上映**：『紅の豚』宮崎駿監督 (1992年、94分、英語字幕付日本語)。

11日 実演&ディスカッション：向雲太郎 (舞踏パフォーマー)。午後6時30分、社会福祉学部ビル (School of Social Work Building) 1636号室 (ワールド・パフォーマンス研究センターとの協賛)。

13日 ヌーン・レクチャー*：「The Genji Scrolls 'Tangled Script' as Ideology (イデオロギーとしての源氏物語絵巻の亂れ書き)」レジナルド・ジャクソン (プリンストン大学演劇学部助教授)。

14日 CJS無料映画上映**：『河童のクゥと夏休み』原恵一監督 (2007年、138分、英語字幕付日本語)。

20日 ヌーン・レクチャー*：「Samurai in Lament: Letters of Family Man in the Fourteenth-century War (嘆きの侍：14世紀の戦争における妻帯者の男の書簡)」殿村ひとみ (ミシガン大学歴史学部教授)。

21日 CJS無料映画上映**：『立喰師列伝』押井守監督 (2006年、104分、英語字幕付日本語)。

12月

5日・6日 パフォーマンス：大駱駝鑑舞踏パフォーマー向雲太郎の舞踏パフォーマンス。午後8時、ドゥデルスタット・ビデオ・スタジオ (音楽演劇舞踏学部との協賛)。

1月

10日 CJS特別イベント：第5回年次お餅つき：伝統のお餅つき、試食、音楽、書道、折り紙、ゲーム、その他。午後1〜4時、社会福祉学部ビル (School of Social Work Building) インターナショナル・インスティテュート・ギャラリー。

14日 歓迎レセプション：平野克弥2009年冬季トヨタ招聘客員教授 (コーネル大学歴史学部助教授) の歓迎レセプション：。午後4〜6時、社会福祉学部ビル (School of Social Work Building) インターナショナル・インスティテュート・ギャラリー。

22日 ヌーン・レクチャー*：「How to Cultivate a Mass Movement: Ethonographic and Historical Perspectives on Sôka Gakkai, Japan's Largest Active Religion (大衆運動の養成 ― 民族学と歴史的視点から見た創価学会)」レヴィ・ミクロークリン (プリンストン大学宗教学博士号候補者)。

25日 ヌーン・レクチャー*：「Beyond Hunger: Food in Wartime in Japan (空腹だけではない：戦時下日本と食)」カタジーナ・チフィエルトカ (ライデン大学東アジア研究学部講師)。

2月

5日 ヌーン・レクチャー*：「Socializing 'Kawaii' (「可愛い」の社会化)」マシュー・バーデルスキー (カリフォルニア州立大学ロングビーチ校東アジア言語文化学部講師)。

12日 ヌーン・レクチャー*：「Culture of the Four Seasons: Secondary Nature, Social Difference, and Trans-Seasonality (四季の文化：二次的自然、社会的差異、トランスシーズナリティ)」白根治夫 (コロンビア大学東アジア言語文化学部日本文学文化学科新潮日本文学著名教授)。

17日 特別講演：トム・ヴィック (スミソニアン博物館フリーア・ギャラリー&ザックラー・ギャラリー映画プログラマー)。午後4時、ラッカム・アンフィシアター (ミシガン大学コリア研究センター、同中国研究センターとの協賛)。

19日 ヌーン・レクチャー*：「Japanese Temples and Congregations in Early Shin Buddhism (新仏教初期における日本の寺院と檀家)」ジェームズ・ドビンズ (オベリン大学宗教学部フェアチャイルド著名教授)。

*ヌーン・レクチャーはすべて無料で一般に公開され、別途通知のない限り、正午から午後1時まで社会福祉学部ビル1636号室にて行われます。ヌーン・レクチャーは米国教育省から「タイトルVI」助成金を受けています。

**映画上映はすべて、ローチ・ホール (611 Tappan Street, Ann Arbor) のアスクウィズ・オーディトリアムにて午後7時に開始されます。映画シリーズは、米国教育省から「タイトルVI」助成金を受けています。

最新情報につきましてはCJSのウェブサイト、http://www.ii.umich.edu/cjs/events/calendar.htmlをご覧ください。

DENSHO
伝書

ミシガン大学日本研究センター
Center for Japanese Studies
University of Michigan
1080 S. University, Suite 4640
Ann Arbor, MI 48109-1106
電話：734.764.6307
ファクシミリ：734.936.2948
Eメール：umcjs@umich.edu
ウェブサイト：http://www.ii.umich.edu/cjs/

所長：ケン・K・イトウ
アドミニストレーター：深澤ゆり
プログラム・アソシエート：ジェーン・オザニッチ
アウトリーチ・コーディネーター：
ヘザー・リトルフィールド
学務コーディネーター：髙田あづみ
オフィス・アシスタント：サンドラ・モラスキー

ミシガン大学日本研究センター出版会
Center for Japanese Studies Publications Program
University of Michigan
1007 East Huron
Ann Arbor, MI 48104-1690
電話：734.647.8885
ファクシミリ：734.647.8886
Eメール：cjspubs@umich.edu
ウェブサイト： http://www.umich.edu/~iinet/cjs/publications

出版会ディレクター：殿村ひとみ
総編集長：ブルース・ウィロビー
CJS執行委員会：
ケビン・カー、ケン・K・イトウ (職権上)、岡まゆみ、仁木賢司 (職権上)、ジェニファー・ロバートソン、殿村ひとみ、吉浜美恵子

ミシガン大学理事：
ジュリア・ドノバン・ダーロウ、ローレンス・B・ディーチ、オリビア・P・メイナード、レベッカ・マックゴーワン、アンドレア・フィッシャー・ニューマン、アンドリュー・C・リックナー、S・マーティン・テイラー、キャサリン・E・ホワイト、メアリー・スー・コールマン (職権上)

ミシガン大学は、平等機会／差別撤廃促進雇用者であり、1972年教育改革法タイトルIXならびに1973年リハビリテーション法第504条を含む差別禁止および差別撤廃に関する連邦および州の準拠法をすべて遵守します。ミシガン大学は、雇用、教育プログラムおよび活動、ならびに入学において、人種、性別、肌の色、宗教、信条、国籍または出身国、年齢、婚姻状況、性的志向、心身障害、退役軍人地位に関わらず、あらゆる人物に関する差別禁止および機会平等の方針を確約します。質問あるいは苦情につきましては、当大学の差別撤廃法担当ディレクターおよびタイトルIX／第504条担当コーディネーター (Director of Affirmative Action and Title IX/Section 504 Coordinator, 4005 Wolverine Tower, Ann Arbor, MI 48109-1281, 734.763.0235, TDD 734.647.1338) 宛てにお願いします。ミシガン大学に関するその他の情報につきましては、734.764.1817にお電話ください。

伝書編集人：ジェーン・オザニッチ
伝書デザイン：ワグナー・デザイン・アソシエーツ
伝書翻訳：村上まどか
伝書制作：プリンテック